

平成17年度試験研究成果書

区分	指導	題名	小麦品種「ゆきちから」の収穫適期	
[要約]「ゆきちから」は遅くとも成熟期後1週間以内に収穫する必要がある。				
キーワード	ゆきちから	収穫適期		園芸畑作部 野菜畑作研究室 県北研究所 やませ利用研究室

1 背景とねらい

製パン適性が高く赤さび病に強い小麦品種「ゆきちから」(育成:東北農業研究センター)は平成15年に県奨励品種に編入されたが、実需者からは製パンに向く品質の安定確保が求められている。

しかし、小麦の収穫時期は梅雨と重ることから、穂発芽やそれに伴う内部品質の低下がしばしば問題となっている。さらに、「ゆきちから」は穂発芽性が「中」と「ナンブコムギ」より劣るため、成熟後製パン適性を急速に損なうおそれがある。ここでは、収穫時期ごとに澱粉粘度を調査し内部品質に着目して収穫期間の限界を明らかにするものである。

2 成果の内容

(1)「ゆきちから」の澱粉粘度は成熟後降雨に遭遇することで急激に低下し、その速度は「ナンブコムギ」より早い。RVA最高粘度135以上を確保するには少雨年であっても成熟期後約1週間以内に収穫しなければならない。(図1)

(2)多雨年では成熟期後数日でRVA最高粘度が135を下回ることもあるので、成熟期前後に長期間の降雨が予測される場合には、収穫可能な水分(自脱型コンバインで概ね30%以下、普通型コンバインで35%以下)に達したならば早めの刈り取り・乾燥を行うこと。(図2)。

3 成果活用上の留意事項

(1)「ゆきちから」の作付を計画する生産組織等は、保有する収穫機及び乾燥機の能力に応じた無理のない作付面積とすること。

(2)収穫期間が短いため冬期播種等を組み合わせ収穫時期の分散を図ること。

(3)成熟期は粒に爪跡が僅かにつき、固い蠟状になった時期(概ね子実水分25%)とした。

4 成果の活用方法等

(1)適用地帯又は対象者等 指導機関並びに「ゆきちから」栽培農家

(2)期待する活用効果 澱粉粘度低下の回避による小麦の品質向上、需要拡大

5 当該事項に係る試験研究課題

(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術(858-1000)県央・県南地域[H14~H17、国庫]、(858-2000)県北地域[H14~H17、国庫]

6 参考資料・文献

(1)岩手県農業研究センター 平成14~17年度試験成績書(一部未定稿)

(2)平成14年度岩手県農業研究センター試験研究成果 品種 小麦 製パン性が高く耐病性に優れる「ゆきちから」

(3)麦類新品種の特性と栽培ポイント(麦類良質品種実用化・普及促進協議会 平成15年)

(4)小麦調査基準(農業研究センター 1986)

7 試験成績の概要（具体的なデータ）

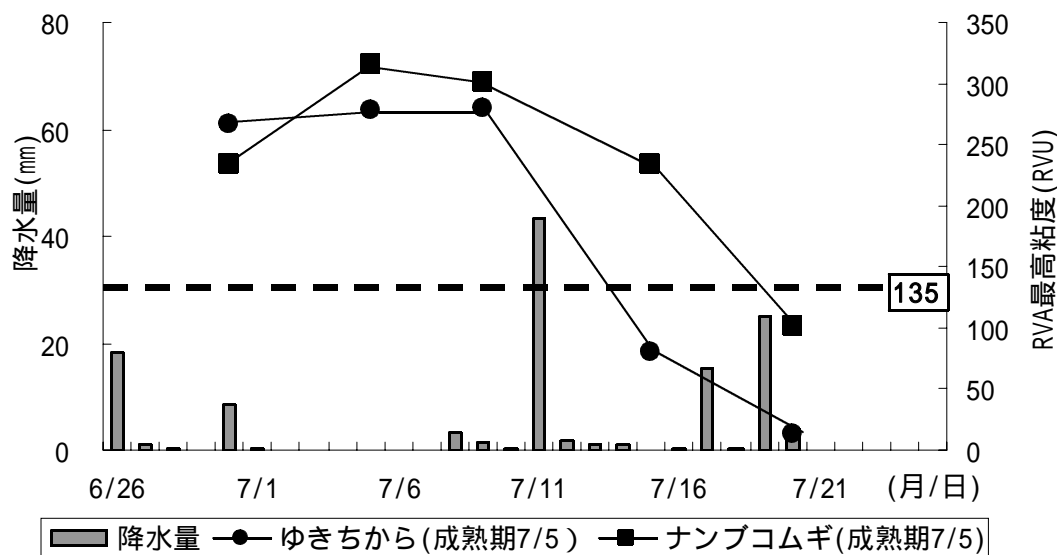


図1 2004年産(少雨年)における成熟後日数とRVA最高粘度の推移（軽米）

注1：成熟期は粒に爪跡が僅かにつき、固い蟻状になった時期。

注2：RVUの測定は東北農業研究センターにおいて行った。

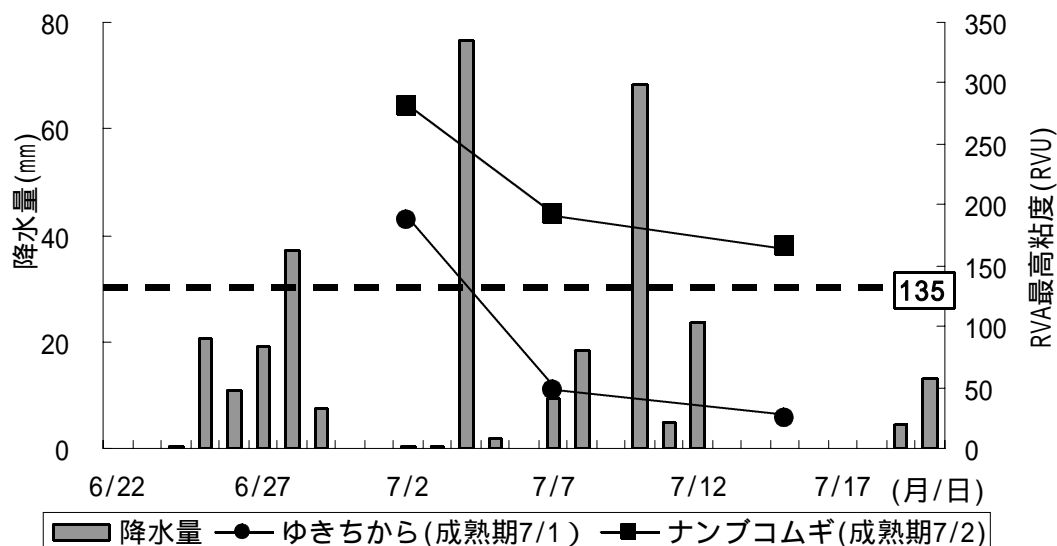


図2 2003年産(多雨年)における成熟後日数とRVA最高粘度の推移（北上）

注1：成熟期は粒に爪跡が僅かにつき、固い蟻状になった時期。

注2：RVUの測定は東北農業研究センターにおいて行った。

*用語解説

・フォーリングナンバー（FN）

澱粉粘度の簡易測定法により得られる指標の一つ。麦の発芽に際して - アミラーゼ活性が高まり、麦粒中の澱粉が分解されることで低下する。この値が低下した小麦（低アミロ小麦）は加工適性や製品品質が低下することから用途に応じて基準値（ランク要件）が設定され、これを下回ると販売価格が下落する。なお、「ゆきちから」のようなパン用小麦では、Aランク区分の要件の一つとしてFN 300以上が設定されている。

・RVA最高粘度

澱粉粘度の簡易測定法により得られる指標の一つで、ラピッドビスコアライザーにより得られた最高粘度をRVUという単位で示したものの。FNと相関が得られることから、この値よりFNを推定することができる。本成果ではRVU 135がFN 300に相当するものとしている。